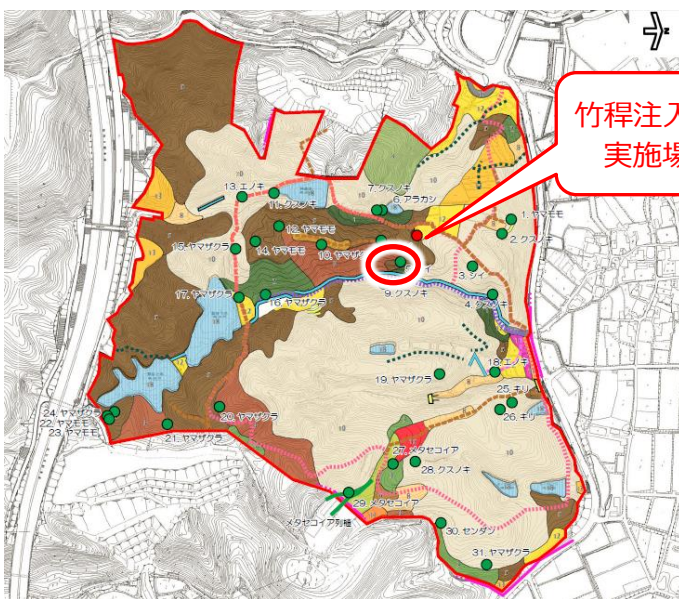
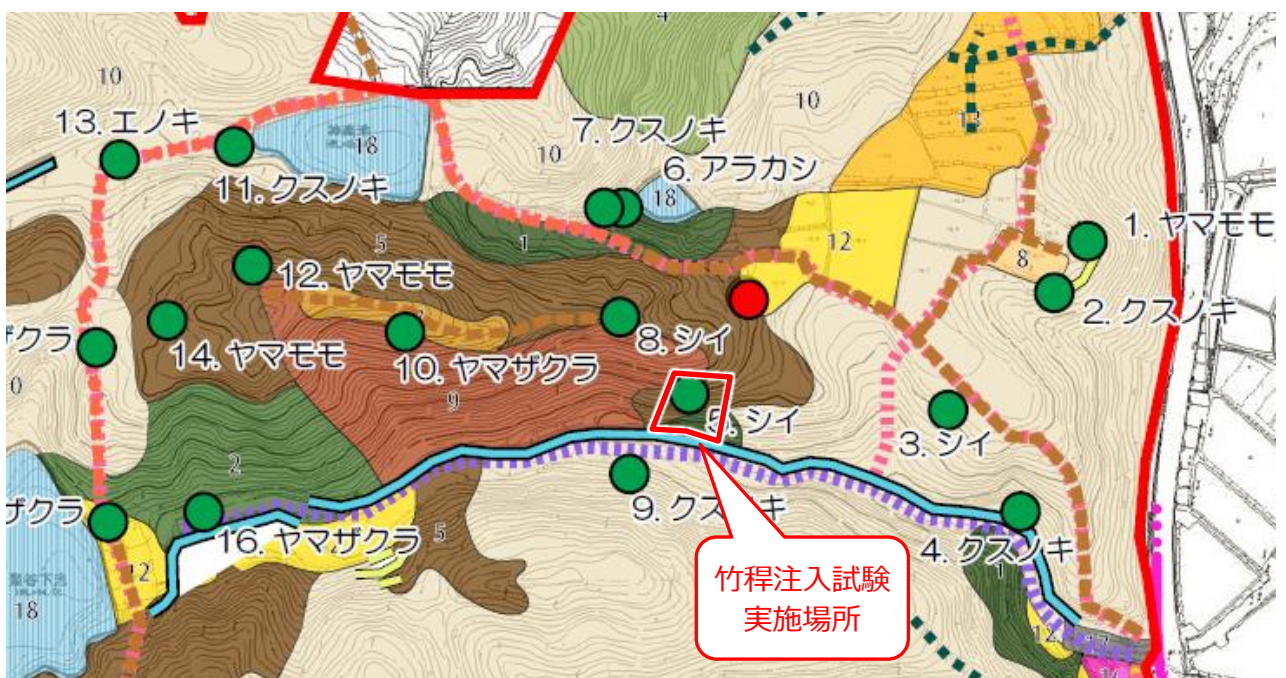


「東地区 竹稈注入処理試験」実施報告（実施～注入2か月後）

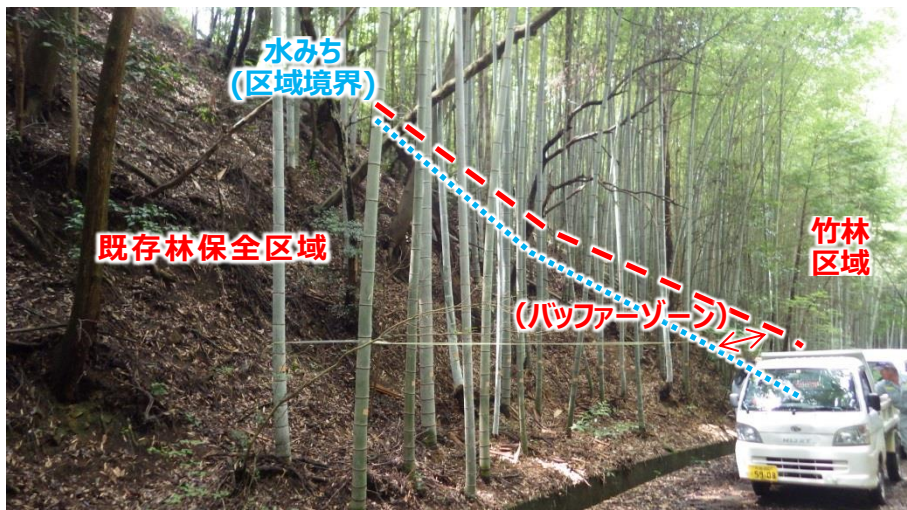
- 実施日：平成29年7月6日（木）
- 作業時間：午前 約1時間、午後 約40分
- 作業人数：7人 + 森林総合研究所 奥田氏（指導役）
- 注入本数：217本
- 準備物：
 - ・グリホサート系薬剤（商品名：サンフーロン） 5リットル →うち、半分程度使用
 - ・電動ドリル（10mmビット使用） 2台
 - ・分注器（森林総合研究所所有品を借用） 1台、スポイド 2個
 - ・布テープ、油性マジック、ビニール紐（注入区域識別用）、空きペットボトル、漏斗
- 実施場所：



祠跡の後背地の既存林については将来的に保全する方針になると思われることから、既存林区域へ侵入している竹林部分において、竹稈注入処理の試験を実施。



■実施場所写真：



- ①竹林が拡大してきている部分のうち、地形的に区切りやすい部分までを「既存林保全区域(仮)」と設定。
※今回は「水みち」を区域線に設定。
- ②区域線より 5～10m程度 竹林区域側をバッファゾーンと設定。
- ③保全区域+バッファゾーンについて薬剤注入実施。



作業は

- ①電動ドリル
- ②薬剤注入 (原液 10ml)
- ③テープ・番号記載

に分かれて実施。

※どれが薬剤注入した竹がわからなくなるため、②と③は一緒に作業を行う方がよい

※処理竹がわかりやすいよう、ドリル穴はできるだけ道側を向くように開けた



穴を塞いだテープに番号記載。

※ 1～170、
500～547 の 計 217 本



■注入 1 週間後：平成 29 年 7 月 13 日 (木)

【状況まとめ】

- 竹の葉・竹稈ともに特に変化は見られなかった。
- 竹を揺らすと多少枯れ葉が落ちては来るが、未注入区域の同様の竹とあまり変わりはない。

■ 注入2週間後：平成29年7月20日（木）

【状況まとめ】

- 竹の葉先が少し茶色くなっている（ただし望遠で見ないとわからない程度）
- 竹を揺らすと、細い竹・太い竹共に枯れた葉が落ちてくる。 未注入域の竹と比べると、注入区域は明らかに落ちてくる派の量が多かった。
- 竹稈の色には特に変化は見られなかった。



【注入区域の竹の葉アップ】



【未注入区域の竹の葉アップ】

■ 注入3週間後：平成29年7月27日（木）

【状況まとめ】

- 今年生えた新竹はかなり上の方まで落葉していた。 未注入域の新竹と比べると、注入区域は明らかに落葉していた。ただし、注入区域でも新竹以外はやや葉の量が少ないと感じる程度の違いだった。
- 竹稈の色には特に変化は見られなかった。



■ 注入 1 ヶ月（4 週間）後：平成 29 年 8 月 3 日（木）

【状況まとめ】

- 竹の落葉が進み、既存樹木に日が当たるようになってきている（ただし、竹の葉すべてが落葉しているわけではない）。特に今年生えた新竹はかなり上の方まで落葉していた。
- 竹稈の色にはやや色が悪くなっている竹があるかもと感じる程度（明確な変色ではない）。



■ 注入 2 ヶ月（8 週間）後：平成 29 年 8 月 31 日（木）

【状況まとめ】

- 竹稈の枯れが進んできている（部分的に茶変してきている竹が多くなってきた）
- すべての竹が落葉しているわけではなく、葉が残り竹稈の変色もない竹も一部ある。



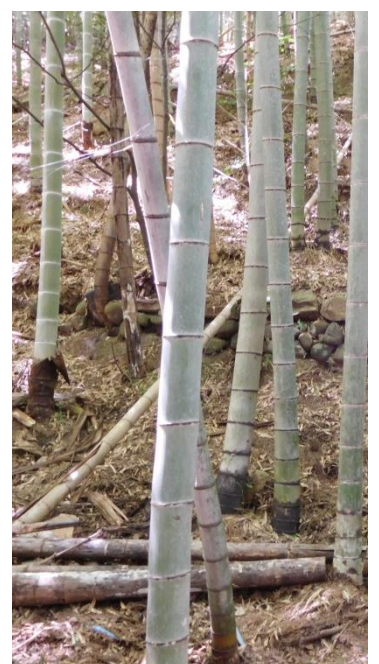
↑ 全体的に茶変した竹



↑ 一部茶変した新竹



↑ 既に折れた竹もあった



↑ 未注入区域の新竹